

令和6年度 総合診療力向上講座 開催報告

令和6年6月1日(土)に洛和会丸太町病院 副院長 上田 剛士 氏を講師に迎え、「医学のトリビア集～何気ない疑問を論文で調べました～」と題した研修会を開催し、210名の医師にご参加いただきました。



上田 剛士 氏

● 受講者の声 ● ～受講後アンケートより抜粋～

- まさにトリビア。論文があるなど、裏づけに驚き。
- 検索された演者の先生の力に敬意を表します。
- 走った後の腹痛の原因がわかった。 ■指のポキポキの音の原因がわかった。

患者さん、家族からの素朴な疑問に答えるため、論文を探しました。
トリビアを勉強したことで、「病態生理に気づく」ことができ「患者さんとのコミュニケーションが良好になった」「生活指導に役立つ」などエビデンスに沿って、話せるようになりました。

question

- Q1 寒い恰好をしていると風邪をひく？
- Q2 指を鳴らすと指が太くなる？
- Q3 走ると腹が痛くなる
- Q4 福耳はホント？
- Q5 笑い過ぎて死にそう
- Q6 オナラが出て困る
- Q7 医師が用いる血液型占いとは？
- Q8 若白髪はなぜ起こる？

令和6年10月26日(土)に京都府立医科大学 総合医療・地域医療学教室 助教 松原 慎 氏を講師に迎え、「頻用薬による薬剤性疾患～印象深い症例を思い出してみました～」と題した研修会を開催し、155名の医師にご参加いただきました。



松原 慎 氏

● 受講者の声 ● ～受講後アンケートより抜粋～

- 対話形式のため思考しながら参加でき知識が深まった。
- 薬剤性の腸管気腫症という知らない知識。
- 研修医の考えを聞くことで自分の鑑別や考えと違う目線での考え方が勉強になった。

「薬剤性疾患を思い出してみました」というテーマで、実際の症例を用いて研修医との対話方式での講義をしました。症状や既往歴、血液検査結果やレントゲン、エコー画像などを提示しながら、問題解決に向け、診断に至るまでのプロセスをお話しさせていただきました。

症 例

- 1) 82歳 女性
記憶はないが夜間に摂食しているようだ
→ゾルピデムによる薬剤性睡眠関連摂食障害
- 2) 22歳 女性 発熱、腰痛
→アセトアミノフェンによる薬剤熱
- 3) 81歳 男性
慢性経過の食思不振、体重減少
→シタグリプチンによる薬剤性腸管気腫症

令和7年2月15日(土)に京都大学消化管外科 教授 小濱 和貴 氏を講師に迎え、「ロボット支援手術のいまとこれから」と題した研修会を開催し、126名の医師にご参加いただきました。



小濱 和貴 氏

● 受講者の声 ● ～受講後アンケートより抜粋～

- ダビンチの進歩。 ■ロボット手術とAIの進歩に驚く。
- 最先端医療に触れた。 ■動画の手術野が鮮明で引き込まれた。
- 子どもたちを含めて若い人達へのアプローチ。

実際のロボット手術の動画の紹介をしながら、ロボット支援手術の現状と消化器手術全体がこれからどうなっていくのか、についてお話しさせていただきました。また、若手育成に向けた手術教育の一環として、学部学生向けの「京大消化管外科手術ロボット体験」や、日本外科学会が主催する小・中・高校生を対象としたイベントについても紹介し、今後の外科医療の行く末についてもお話ししました。



手術ロボット体験会
(学部学生)

在宅医療に関係する質問があればお問い合わせください。サポートセンターと保険医療課で連携し回答いたします。

お問い合わせ、ご意見及びご感想は
京都府医師会在宅医療・地域包括ケアサポートセンター

〒604-8585 京都府京都市中京区西ノ京東桐尾町6番地 京都府医師会館3階
tel.075-354-6079 fax.075-354-6097

京都府医師会

在宅医療・地域包括ケア サポートセンター news

Vol. 55

2025年7月15日

京都府医師会在宅医療・地域包括ケアサポートセンター
〒604-8585 京都府京都市中京区西ノ京東桐尾町6番地 京都府医師会館3階 tel.075-354-6079 fax.075-354-6097

※当センターホームページにてバックナンバーがお読みいただけます。

Menu

- ◆令和7年度 研修会のご案内 (P.1)
- ◆令和6年度 京都在宅医療塾 ZERO 開催報告 (P.2)
- ◆令和6年度 京都在宅医療塾 実践編 開催報告 (P.3)
- ◆令和6年度 総合診療力向上講座 開催報告 (P.4)



京都 在宅医療

検索

※今後の研修会開催予定一覧です。演題名等詳細は順次、京都医報、当センターホームページでご案内いたします。

令和7年度 研修会のご案内

■ 京都在宅医療塾

回・対象等	日 時	講 師 ・ テーマ	申 込
実践編 〔対 象〕 医師	8月9日(土) 14:30～16:30 8月27日(水) 14:30～16:30	洛和会音羽リハビリテーション病院 在宅医療支援センター(訪問診療医) 部長 谷口 洋貴 氏 まつだ在宅クリニック 院長 松田 かがみ 氏 テーマ 「POCUSで腹部と下肢(下肢静脈血栓症)を診てみよう!」	
ZERO 〔対 象〕 医師・多職種	9月20日(土) 15:00～17:00	角水医院 院長 角水 正道 氏 京都府立医科大学附属病院 看護部管理室 副看護部長 光本 かおり 氏 患者サポートセンター 副センター長 テーマ 「症例編(脳梗塞・肺炎・看取り)」「病院と在宅チームとの橋渡し 患者サポートセンター～特定機能病院における入退院支援の実際～」	8月1日 広報開始
第2回 探究編 〔対 象〕 医師・多職種	10月25日(土) 14:30～16:30	東京ふれあい医療生活協同組合 研修・研究センター長 地域連携型認知症疾患医療センター長 平原 佐斗司 氏 日本エンドオブライフケア学会 副理事長 テーマ 「腎不全の緩和ケア～保存的腎臓療法(CKM)～」	9月15日 広報開始
第3回 探究編 〔対 象〕 医師・多職種	12月6日(土) 14:30～16:30	京都府立医科大学 リハビリテーション医学教室 テーマ 「テーマ調整中」	11月1日 広報開始

■ 総合診療力向上講座(Web 開催)

回・対象等	日 時	講 師 ・ テーマ	申 込
第2回 〔対 象〕 医師	9月6日(土) 15:00～16:30	京都府立医科大学 総合医療・地域医療学教室 講師 松原 慎 氏 テーマ 「頻用薬による薬剤性疾患2～印象深い症例をもう少し思い出してみました～」	8月1日 広報開始
第3回 〔対 象〕 医師	1月24日(土) 15:00～16:30	京都大学医学研究科 医学専攻内科学講座腫瘍内科学 准教授 松原 淳一 氏 テーマ 「テーマ調整中」	12月15日 広報開始

【お知らせ】

京都府医師会の役員改選が令和7年6月15日に行われ、京都府医師会在宅医療・地域包括ケアサポートセンター担当役員も、一部変更となりました。引き続き宜しく願い申し上げます。

副会長：谷口 洋子、理事：武田 貞子、市田 哲郎、小柳津 治樹、藤田 祝子*、鎌田 雄一郎*、西村 幸秀、近藤 久勝*

※が新任

令和6年度 京都在宅医療塾 ZERO 開催報告

令和6年8月22日、「ゼロからはじめる在宅保険請求 訪問看護師・ケアマネジャーとの連携」と題した研修会を開催し、医師38名、多職種7名にご参加いただきました。

講師 京都府医師会理事、角水医院 院長
ファシリテーター 植松医院 院長
訪問看護ステーションひなた 管理者
嵯峨野病院居宅介護支援事業所 管理者

角水 正道 氏
植松 靖之 氏
園野 一美 氏
川添 チエミ 氏

まずは往診からはじめましょう

		初診料・再診料			
		時間内	時間外	休日	深夜（22時～6時）
往診科	普通往診	ア・ク	ウ・キ		
	緊急往診（標榜時間内）	イ			
	休日往診（日・祝・年末年始）			カ	
	夜間往診（18時～8時）		エ		
	深夜往診（22時～6時）				オ

ア：診療時間内に往診を求められ診療時間外に実施
イ：診療時間内に往診を求められ診療時間内に実施
ウ：診療時間外に往診を求められ診療時間外に実施
エ：午後9時に緊急往診を求められ即座に実施
オ：日曜午後10時に緊急往診を求められ即座に実施
カ：日曜午後4時に緊急往診を求められ即座に実施
キ：午後5時（診療時間外）に往診を求められ即座に実施
ク：土曜深夜に往診依頼され医療機関都合で日曜に実施

往診料・訪問診療料（在支診以外）

往診料	720	訪問診療料（Ⅰ）1イ	888
緊急往診加算	325	乳幼児加算	400
夜間・休日加算	650	在宅医療DX情報活用加算	10 要届出
深夜加算	1300		
患者診療時間加算 要届出	100	患者診療時間加算	100 要届出
在宅ターミナルケア加算	3500	在宅ターミナルケア加算	3500 要届出
要届出 酸素療法加算	2000	酸素療法加算	2000
看取り加算	3000	看取り加算	3000
死亡診断加算	200	死亡診断加算	200

植松 靖之氏の講義より 訪問看護師と連携をして実際に在宅医療を実施されている立場から

- 在宅看取りが前提ではない。
- 状況により、在宅ではなく病院や施設を利用することも考慮すべき。
- 確保できている介護力も判断材料に、最初から最期まで在宅ではなく、病院での入院生活も考慮する。
- そのうえで在宅への復帰を考えてみる。選択肢として、「在宅看取り」がある。

園野 一美氏の講義より 訪問看護師の立場から

実例を通して訪問診療をしている医師との連携の重要性の説明

- ①102歳男性：長女と二人暮らし
腎盂腎炎、慢性呼吸不全
訪問診療・看護を受けながら在宅療養
- ②70歳代女性：夫（要介護）と二人暮らし
肺がんのターミナル期で多発性脳転移
自宅でベッドを並べて、要介護同士で在宅療養
- ③70歳代男性：妻と二人暮らし
頬粘膜癌、舌癌術後、対症療法を受け在宅療養

訪問診療しようかな

	往診	訪問診療
実施	患者の求めに応じて実施	計画的医学管理のもと定期的に実施
算定回数	その都度	1日につき1回 末期の悪性腫瘍等を除き原則として 週3日まで
算定要件	特になし	初診料を算定する初診日は算定不可 往診料を算定した翌日は算定不可 （在宅療養支援診療所等を除く）
診察料等の同時算定	初診料、再診料・ 外来管理加算は 併せて算定可	再診料、外来管理加算、往診料、 外来診療料は包括されているため 算定不可
緊急加算等	緊急加算、 夜間・休日加算、 深夜加算	なし

物 品

- ①在宅療養指導管理材料加算
- ②特定保険医療材料として保険請求可能

手技・処置

- 尿道カテーテル留置・気管切開チューブ交換・胃瘻カテーテル交換・経鼻胃管交換
- 褥瘡処置・中心静脈栄養等
- 訪問看護師と協議、必要あれば他医師の意見を参考に医師が決定・指示
- 信頼関係を前提に適切な役割分担を指示

川添 チエミ氏の講義より 介護支援専門員の立場から

医療との連携で心がけていること

- 利用者・家族が医師に伝えられることは直接話をするよう、助言する。**必要な時のみ代弁**
- 医療に必要と思われる**情報を厳選**する。
情報提供が診療に役立つと分かればケアマネジャーの話を聞いてもらえる→**信頼関係の構築**
- 連絡の**タイミング**と**連絡方法**、ポイントを**簡潔に**、先に**結論**を詳細は医師の質問に合わせて説明。
- 可能な限り診療に立ち合い、情報共有を行い、**状態急変時等**は躊躇せず連絡し指示を仰ぐ。→**医師への連絡方法を事前確認しておく**

京都在宅医療塾 ZERO を開催して

当サポートセンターは在宅医療推進のために発足当初から試行錯誤を重ね様々な企画を提案・開催して参りました。その中で、「かかりつけ患者さんに往診をお願いされたけどちょっと自信がない」とか「在宅診療をステップアップし軌道に乗せたい」先生方を対象に企画したのが「在宅医療塾 ZERO」です。現場のニーズに合致しているか不安なまま開催したところ、幸い多くの方に参加いただき心から喜んでおります。

令和6年度は、在宅診療の基礎的な診療報酬算定と訪問看護・ケアマネジャーとの連携をテーマにしました。令和7年度は、症例に則した診療報酬算定や多職種連携について企画中です。今後も様々な企画を検討するなかで、できるだけ現場のニーズに即して開催したいと考えております。各種会議への参加の機会が少ない皆さんから是非現場のお声をお伺いしたいです。今後の企画に反映させていきたいと考えておりますので、どしどしご意見賜りますようよろしくお願い申し上げます。



角水 正道 氏

令和6年度 京都在宅医療塾 実践編 開催報告

令和6年8月8日（木）・9月4日（水）に洛和会音羽病院 院長補佐 総合内科部長 洛和会音羽病院教育センター センター長 谷口 洋貴氏、まつだ在宅クリニック 院長 松田 かがみ氏を講師に迎え、「在宅で浮腫・発熱の患者さんをポケットエコー（心エコー・腹部エコー）で診てみよう!!」と題した研修会を開催し、46名の医師にご参加いただきました。



松田 かがみ 氏／谷口 洋貴 氏

在宅診療の現場に即したPOCUS

何も無くいきなりエコーはしないでしょう。

やはり、「臨床上の問題」が生じて、

「臨床推論」して、「病歴聴取」→「身体所見」...と進みましょう。

この次に、「**POCUS**」がでてくるわけです!!

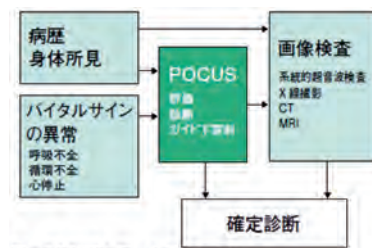


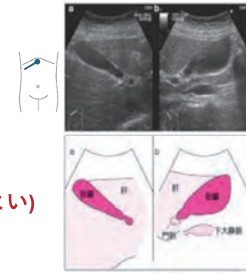
図 POCUSを用いた診療の流れ

皆様が通常診察室で展開されている診察の手順に則ってPOCUSは実施します。

急性胆嚢炎を疑ったとき

～胆嚢・胆道エコー～

- 【見るポイント】
- ・胆嚢の同定、観察
右肋弓下に、右記のようにプローブを縦・横の“2通り”で置いて観察
(プローブを90° 回すとよい)



京都府医師会レクチャー POCUS

尿路結石を疑ったとき

～腎臓エコー～

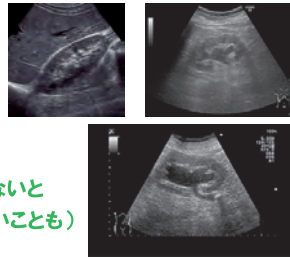
【見るポイント】

- ・腎臓
水腎症の有無
腎内の結石
- ・尿管
尿管結石の有無

（腹臥位で背部からのエコーでないとうかりにくいことも）

【進め方】

- ・右腎、左腎の同定 → 水腎症のチェック
（通常は片方のみ）
- ・尿管の同定、観察



（「超音波検査法セミナー」HPより）

京都府医師会レクチャー POCUS

● 受講者の声 ● ～受講後アンケートより抜粋～

- 在宅でエコーをする心理的ハードルが下がった。
- 具体的にどのような時にどこをみるか理解できた。

- デバイスの進化に驚いた。
- 実際にプローベを手にとってしっかり実習できた。